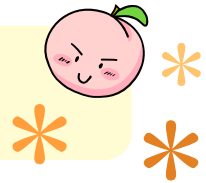


お茶のお話（中）



みなさん、こんにちは。今日はお茶のお話です。

2月4日の立春から数えて88日目の5月2日ごろを^{はちじゅうはちや}八十八夜といひます。3日後には立夏を迎えることから、夏の準備を始める重要な節目と考えられてきました。

八十八という漢数字を組み合わせると「米」となることから、縁起が良いとされています。この日は農業に従事する人たちにとって特別重要な日で、茶摘みや米や野菜の苗作りなど農作業の目安とされてきました。

「夏も近づく八十八夜…」という「茶摘み」の歌に歌われるように、この頃に茶摘みは最盛期を迎えます。八十八夜に摘み取られたお茶は、柔らかく良質で、古来より不老長寿の縁起物の新茶として大切にされています。さらに、新茶には、テアニンという脳に効く成分がたっぷり含まれていて、集中力を高めるといわれています。

愛知県西尾市は、抹茶となる原料の茶葉、^{てんちゃ}「碾茶」の栽培が有名です。今日は西尾市産の抹茶を使ったデザートがあります。お茶のさわやかな苦味と香りを味わいましょう。